



1:トライクのフロントマスクには、クロームフェアリンググリルやヘッドライトに変えられている。2:右ハンドルスイッチはクルーズコントロール系、オーディオボリューム、ウィンカー、ホーン等。4:千葉県松戸市にあるショップだ。5:銀色に輝くパーツがハンドルアップキット。ゴツいアストロバスタードスイッチ、ボタン操作で調整可能なリアショックフルコントロールだ。7:トライクの後輪2本は正に車同様で、1本が205/60R15サイズである。

# ホンダ GL1800&GL1800 トライク with 水口さん



この巨大で美しい車両を見かけた事があ  
るだろうか。アメリカホンダが製造する  
GL1800は、アメリカ大陸を縦横無尽  
に走破する為の装備が満載だ。  
水冷4ストロークOHV水平対向6気筒  
1832ccのエンジンを搭載し、総重量  
420kgを超える超大型のバイクである。  
その一台を所有する事は多くのベテラン  
ライダーの憧れともなっているが、今回登  
場した水口さんは、ソロのGL1800  
に加え、3輪仕様であるGL1800トラ  
イクをも所有する強者だ。

若い頃にバイクと出会い多くの事を学  
び満喫したのだが、家業である自動車教習  
所の経営を任される頃にはバイクはおろ  
か、他の趣味をも自粛してしまっ  
た。その期間は40代後半まで続くが、ひよんな  
事でバイクに復活する事となる。それは友  
人がアメリカンバイクを購入する際に相談  
を受けた時だ。  
「彼が乗るのなら私も乗らなくては単純  
にそう思い復活を果たす。時を経て、久々  
に乗ったバイクは想像以上に進化し楽し  
かった。

あつという間にバイク熱は高まり、乗ら  
なかった時間を取り戻すが如く様々なバイ  
クに乗り始めた。  
威风堂々としたアメリカを象徴するハー  
レーも大好きだし、ヨーロッパを走る為  
に生まれたホンダのパンヨーロピアンも気  
に入った。  
しかし何より、ホンダの頂点モデルである  
GL1500を所有した際に深く感銘を受  
けたのだ。どこまでも走って行きたくなる  
様なスムーズさと快適さを知ってしまった  
のだ。

そしてGL1500の後継機種である  
GL1800を手に入れる。これがまた素  
晴らしい出来で大変気に入ってしまった。  
唯一気になった所はハンドルの位置であ  
ったが、鹿児島霧島市にあるバイクショッ  
プイナドメ、岡山メカニック特製のアルミ  
削り出しハンドル延長キットを装着し、完  
璧な状態となった。  
重量級バイクであり、押し引きはもちろ  
ん大変だろうと想像したが、何とバックギア  
が装備されているのでさほど苦労は無いと  
思った。  
しかしある時立ち上がりを経験する。その時  
不覚にも自身で起こす事が出来なかった。  
そのショックは計り知れず「あゝ、自分は  
このバイクに乗る体力が無くなってしま  
ったのか」と落胆した。  
とは言え、GL1800に乗りたい気持ち  
に変わりは無い。その時知ったのが、関東

にあるヘガスというショップで3輪のトラ  
イクを製作してくれるショップ。  
これなら未永く楽しめる。そう思い、現  
在所有しているGL1800はそのまま  
に、トライクのベースとなるGL1800  
探しが始まった。  
少し探した頃、運良くヘイス車も見つかり  
早速ヘガスへ改造の手配をした。  
出来上がった車両の完成度にも満足しツ  
ィングはもちろん、地元幼稚園で子供達を  
乗せてあげたり、お祭りやイベントのパ  
レードにも使用した。もちろんこの車両に  
もハンドル延長キットを装着し不満は全く  
無い。

そんなトライク生活を楽しんである  
日、明らかに自分より自上のライダーがソ  
ロバイクで走っている姿を見かけた。  
「何という事だ。私ももう年上の方だっ  
てソロでバイクを楽しんでいるじゃないか！  
もう一度ソロでも走り出そう」として  
GL1800ソロも久々に稼働する事と  
なった。  
そんな水口さんは先に述べたように自動  
車学校の経営者である。そして独学で学  
び一級建築士の資格も持っている。何事も努  
力を怠る事無く生きてきた水口さんに、ま  
たしても転機が訪れた。



写真右:奥様が駆るホンダシャドウ・スラッシャー。写真中央:自宅スタジオでドラムを叩く水口さん。セットはパール製のクラシック・メイプルで、ギター用アンプはフェンダーのツインやバイプロックス等の嗜好みな機材が揃う。写真左:大きな会社の代表であるが、趣味の話をする時には少年の様な瞳で、本当に楽しげに話してくれたのが印象的だった。